

【社説】紅海巡る緊張再燃を憂慮する

2025/3/17 19:00 | 日本経済新聞 電子版



米国はフーシへの攻撃を継続する構えだ（15日）＝ロイター・米中央軍提供

米軍がイエメンの親イラン武装組織フーシへの空爆に踏み切った。数十人が死亡したとされ、フーシは報復を宣言した。中東・紅海周辺の緊張の再燃を憂慮する。

トランプ米大統領の2期目の就任後、中東で最大の軍事作戦と報じられた。同氏は、フーシが紅海周辺を通る米艦船などへの攻撃をやめるまで続けると表明した。

イランが後ろ盾のフーシは2023年以降、イスラエルや同国に関連するとみなした船への攻撃を繰り返してきた。イスラエルと戦うパレスチナ自治区ガザのイスラム組織ハマスへの連帯からだ。

紅海はスエズ運河経由でアジアと欧州を結ぶ海上交通の要衝だ。海運大手は日本企業を含め、アフリカ南端への迂回を余儀なくされた。国際物流への影響は大きい。航行の安全の回復は急務だ。

もっとも、米軍が猛攻を重ねれば、イエメン市民の犠牲は膨らむ。フーシの反撃でかえって航行の安全が脅かされる危険もある。武力だけでねじ伏せる姿勢は逆効果になりかねない。

トランプ氏はイランにも「フーシへの支援を直ちにやめよ」と警告した。イランに核開発を巡る交渉を呼びかけており、圧力をかける思惑がにじむ。しかしイランは圧力下の交渉を拒んでいる。軍事行動が外交成果をうまず、緊張ばかり高める危うさもある。

フーシは今年1月にイスラエルとハマスがガザ停戦に合意後、船舶攻撃を止めていた。今月に入り、イスラエルがガザへの支援物資搬入を阻んでいるのに反発し、攻撃再開を宣言した。紅海の航行正常化はまた見通せなくなった。

商船攻撃は決して容認できない。一方、ガザの問題が中東の火種としてくすぶり続けていることを忘れるわけにはいかない。

ガザの恒久停戦に向けたイスラエルとハマスの交渉は難航している。米国に期待されるのは新たな軍事作戦より、この膠着状態の打開ではないか。国際社会は仲介国とともに、双方の合意を粘り強く働きかける必要がある。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.